

#### 第4回 探Qスキル勉強会[実践共有後の感想]

- ◆ 「人と切り離さない!」モチベーションを高めるには、その場を実際に見る、その人に実際に触れる、本物見たり、出会ったりする、その瞬間を重ねることかなと思いました。やっぱり、仕事も学びも、「人」が大事!!来年も、皆さんとつながって何か楽しいことをしたいです
- ◆ しかけはいろいろ設定してきたつもりですが、「生徒が動く」ものではなく「生徒にやらせる」ものであったように思います。家庭科をもっと身近に感じてもらうことができるような仕掛けを考えていきたいです。今使っている教科書にとらわれず、いろいろな会社の教科書からテーマや素材を探してみたいと思います。来年は、新聞感想文コンクールにチャレンジしたいので、新聞から授業の素材を探して授業をすることを意識してみたいです。
- ◆ どのように生徒のモチベーションを高めているかということについて、意外と答えるのが難しかったです。自分とはかく生徒に話しかけることを意識していて、違った視点を与えたり、本当にそうなのか問いつめたりして、生徒に新しい気づきや、考えを深めるポイントを提供できたらな、と思っています。今後やってみたいことは、考えが深まる問いはどうしたら生まれるのか、生徒がどんどん動きたくなる課題を設定するための手立てを考えていきたいです。
- ◆ 生徒のモチベーションだけでなく、先生のモチベーションを高める仕掛けの大切さも実感しました。みんなが楽しく、夢中になれる工夫を考えてみたいなと思いました。また、学校ごとに生徒の学びへの向き合い方が違うので、仕掛けの仕方も変わっていくことを実感しました。いろいろな学校のいろんな実践の中で、生徒たちがどんな学びをしているかもっと知りたくなりました。
- ◆ 他県の先進事例もわかり、有意義な時間でした。県内の若手の先生が生徒に寄り添って、様々な工夫をしている姿にも感動です。「先生方みんな協力的で」という言葉が自分事のように嬉しかったです。
- ◆ 30分の中にセレンディピティがいくつもあって非常に濃密な30分でした。来年は今日お話しした二人それぞれこの続きをリアルで話す機会を作りたいと思います。それが僕のNext actionです。
- ◆ 私もあと5倍くらい時間が欲しかったです。廣瀬先生の一つステップの上のものをというコメントが印象に残りました。日本史や地理の授業で歌を教材に活用していますが、意外な視点から切り込むことで学びの楽しさを生徒に実感してもらっています。教科横断的な授業の頻度をさらに増やして、もっと学びの質を高め、生徒がおもしろく楽しく学べる機会を提供していきたいです。
- ◆ 探究学習にどうしたら図書館を活用できるのか、高校生や教員が図書館に来たいと思うにはどのような仕掛けが必要なのかを考えたいと思いました。ただ、当然！人ではできないのでまずは協力者探しから!
- ◆ 出会いはたまたま楽しく。自ら学んで、自ら発信する。最近聞いたワードで、自らに学びたいのは、「受援力」これを高めたい。

- ◆ モチベーションを高めるためにできること、失敗を面白がってくれる環境をつくる。静岡県でやっているアントレプレナーシップ、素敵です。先生が変われば生徒も変わる。教員の資質向上も大切。最後に、図書館についてお話を伺ったのですが、実は私も図書館とのコラボレーションが課題なので来年のテーマにします！
- ◆ 眺野先生のお話のように生徒の心を揺さぶれるよう頑張りたいと思います。櫻井先生、とっても素敵な授業をされています。まさに STEAM です。他教科、実生活と教科が結びつく生徒のモチベーションは必ず高まると思います。吉川先生は、定時制の生徒さんに自信を持たせることができていると感じました。アドラーのお話もっと伺いたかったです。杉山先生、グループのコーディネートをありがとうございました。若い先生方の熱量を引き出していますね。素晴らしいです。山梨も若手を育てられるように頑張ります。ありがとうございました。
- ◆ 「なんでもいいよ」を本当に「なんでもいいよ」にする！探究の授業の冒頭で「なにをしてもいいよ」と言っておきながら、特別な装置が必要な研究とかお金がかかる探究とか「やれないこともあるでしょ？」って無意識のうちに制限があるように感じていた（生徒も教師も私も）。だから、来年は「本当になんでもできる！」って思ってもらえるような事例を1つ作ってみたいです！例えば、今まで本校では1班も出てきていない『ガチの科学系研究』を探究の授業でやる班。こんな班を育ててみたいです。
- ◆ 【振り返り・やってみたいこと】最初のお話の「目標を生徒用に設定する」というのが面白いと思いました。「考えてみよう」「してみよう」ではなく、「あふれ出るように」みたいなイメージのしやすさ、ワクワク感が出るようなものを自分も考えてみたいと思いました。グループの話の中では、自分たちが工夫するだけでなく、「周囲の先生を巻き込む」ことが生徒の探究的な学びのモチベーションを作るうえで大事だと改めに思いました。先生たちにとっても「モチベーションが高くなる」ような楽しい探究学習を設計したいと思いました。まずは自分+1人の仲間を職員室で作れるようにコミュニケーションをとっていきたいです。（すごく楽しかったです！）
- ◆ 他者との関わりの中で、自分に気づく。また、言語化できなかったことについても気がつくことができる。人が学んでいくためには、他者との関わりが大切であることに改めて気が付きました。
- ◆ モチベーションを高めるためにできること。生徒が対象に対して前のめりになれる仕掛けを考えること。その仕掛けは、問いかけであると思う。来年は、「モチベーションが高まる」問いについて考えてみたい。
- ◆ 生徒のコミュニケーションが活発に行われている班と行われていない班の違いを、先生方との対話を通じて確認できた。「自分も一人の学習者なんだよ」「自分も一人の探究家なんだよ」という視点を生徒に共有してあげることが大切だと思った。生徒と同じ目線で探究する姿勢を、生徒に見せてあげたいと思った。来年は生徒の探究サイクルの起爆剤となるような発言・発問について考えていきたい。

- ◆ 先生の熱量や探究心が大事だと思いました。先生が新しいことにチャレンジする姿や生徒とともに考えることを楽しむ姿を見せること。それは生徒に伝わり、いいモデルになると思います。来年はほーむるーむだけでなく授業集団でも学級づくりを意識してみたい(定時制なので)。
- ◆ モチベーションを高めるためにできることは、教員がしゃべる過ぎず、できるだけ「短い言葉」や「ルール」、「映像」等で生徒が考えるよう仕向けることだと考えています。一人では難しいので、こうした場で皆さんと話をするなかで気が付くこともあります。こうした場の設定は非常にありがたいです。
- ◆ 「学びに向かう力」とは何か?より具体的にしていきたい。分からないことを分からないまま抱えて走る、ということを前向きに捉えながらやっていきたい。運営の皆さん、眺野先生、皆さん、本日もありがとうございました。
- ◆ 「その気になる仕掛け」…何をどう仕掛けるか。まず「何を」が難しく、ノウハウを求めがちになるものですが、正解はなく、目の前の対象に応じて変わるものだと思います。ライブ感って大事ですね。自分に置かれたポジションで、オツと思える仕掛けを考えてみたいと思いました。

いろんな「仕掛け」を聴いて...問いたくなる、話したくなる、やってみたくなる。やってみたら、きっとまた話したくなる。心が動き出す、2024年最後の勉強会はそんな時間になりました。2025年も「仕掛け」まくりましょう!